

第 10 回高大接続システム改革会議について

2016 年 1 月 29 日に第 10 回高大接続システム改革会議が開催された。

10:00 から 12:00 まで文部科学省 3F1 特別会議室で行われた。

傍聴者は 100 名ほどいて、傍聴席は満席となっていた。

最初の 10 分ほどはテレビカメラが 2 台入っていた。

今回の議題は以下の通りである。

- (1) 「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」について
- (2) 「高等学校基礎学力テスト(仮称)」について
- (3) その他

最初に、事務局より「中間まとめ」に対するパブリックコメントの結果が示された。

昨年 10 月 1 日～11 月 30 日に意見を募集し、217 件の意見が寄せられた。

二つの新テストを含めて、高校教育改革、大学教育について様々な意見があった。

特に、「高等学校基礎学力テスト(仮称)」については、その目的があいまいであると厳しい指摘が相次いでいた。

まずは(1)についての議論が始まった。

事務局より新テストワーキンググループでの議論を踏まえた論点メモ(案)の説明があった。

記述式の問題に対して、実施・採点の実現可能性について議論されてきたが、思考力・判断力等の評価としてやはり必要であるとして、「条件付き記述式」(短文記述)や数式の解答を中心とすることで採点コストを下げるという。

さらに、OCR(文字認識)技術の活用し、似た解答をグループ化することによって採点のばらつきを抑え、効率化を目指す。最終的な適合性の判定には民間事業者への委託を考えているようだ。

この条件の下での採点期間の試算では、800 人体制で 20 日～60 日かかるという。

現状のセンター試験よりは時間がかかってしまうため、多肢選択式とは別日程で試験を行なうことが検討されている。

同様に、英語についても「話す」技能については IC レコーダやタブレット PC の録音機能の利用が考えられており、多肢選択式と別日程での実施が検討されている。

複数回実施に関しては、引き続き検討事項となるようだ。

これに対し、委員から意見が出された。

前回、テスト問題のイメージが出されたのに対し、今回は具体的な採点基準などが示されることがなく、民間に委託されることも懸念となり、採点に対する不安がぬぐえないようだ。論述式のテストを個別試験でみるのだから、記述を難しくする必要はないとか、「記述は無理だ」とははっきり言い切る委員もあった。
今後も引き続きワーキンググループで議論される。

11:10 頃より (2) についての議論にうつった。
事務局より、これまで校長会や PTA などさまざまな関係団体との個別意見交換が行われ、さらに民間事業者説明会も行い 92 団体が参加したことが報告された。
そこでの意見交換の結果、テストの目的・対象者をさらに明確化する必要性が示された。

委員からも、名称を含め目的を明確にすることが必要だという意見が出された。
高校生の基礎学力低下の改善として、学校ごとの改善のための資料という側面と生徒個人の改善のためという側面の両方が想定されている。
このテストが基礎学力の底上げを目的としているため、このテストの受検が学校の基礎学力の低さを表すことになり、受けること自体がマイナス評価になるという懸念もあるので、悉皆で実施すべきという意見もあった。
こちらのテストについても、引き続きワーキンググループで議論されることとなる。

12:00 となり、(3) その他として、高大接続改革に関わる平成 28 年度予算案が示された。
この改革のため総額 50.5 億円が割り当てられる予定だとのことである。

次回は、日程調整ののち 2 月頃に開催予定である。